

編集後記

■わが編集局顧問岩谷先輩近く。曉に論陣を張り、夕に盃を傾けた酒仙大人。自身創刊に係わった向陽新聞の休刊を嘆き、母校の現状に舌鋒鋭く、若者の壮気愛を、時に歌い、時に語りし偉大なる先輩。嗚呼今は無く。個人広告の依頼に、今回も応諾のご返事をいただいて二日後、図らずもその返書が形見となってしまうとは。還暦も未だしの若さで無念也。今は只ご冥福を祈るのみ。……合掌 (T)

■仕事の合間の酒話二題。編集長送別会の後、うら若き後輩を誘って途中下車。いきつきの店のカウンター。「三島由紀夫に似た彼と不倫ですか」と隣のおじさんに言われ、両者大いに喜ぶ。そして一週間後、噂の一木会に初参加。やさしい先輩たちと、大好きな土佐鶴。これで酔わなきや嘘で損。「目がすわつちよつた」そう。翌朝は心地よいめまいで、五時起床。徹夜仕事で目がすわっている亭主を送りだした。(酒呑童女)

■このところ、所用上の一割合で、高知の北川村へ行っている。郡部の山々は以前と

変わらぬ緑が美しいが、高知の街は何となく寂しくなつたと感じる。ネオンに目がすっかり慣れてしまったからか。さて、母校が全国大会の第一回目に優勝していたことを今回初めて知ったが、いろいろ話を聞くと当時の闊達な校風が想像される。そして、その伝統は脈々と継承される。取材にあたって、新宿の店を闊飲(?)しつつハシゴして、夜の夜中に人のことは知らんとはかり各自解散。ここに自由闊達、独立独歩の精神を痛感した次第。その節は有り難うございました。(オ)

■戸田前編集長が日本を離れたその日、岩谷顧問の計報が届き、驚くやら困惑するやらでその日は仕事も手につかず、呆然。「後は頼むぜよ」の一言の重みがひしひしと感じられる。手間が増すはずも無しと鰻丼一杯で引き受けた編集長の座、最初からずり落ちそうな厭な座り心地。「帰ったら、またやつちやるき」の空手形を当てにして、三年間の辛抱と自分に言い聞かせる。そんな中なんとか無事15号を発行できたのは、ひとえに皆様の協力のおかげです。宜しくお願いします。(F)

原稿募集のお願い

『風のたより』近況報告、同期会、出版物・展覧会、募集捜し物等。葉書1枚程度。『思い出の先生方』今までは御遺族の方をお願いしていましたが、生死を問わず皆様の思い出に残る先生を原稿用紙三、四枚程度。できれば写真もお貸し下さい。『今、こんなことをしています』自薦、他薦を問わずご紹介下さい。

田島征彦=作・絵
みみずのかんたろう
高知の山に住む、みみずに託して描く生命賛歌の絵本。
■定価1500円(税込)
読む楽しさ、知る喜び

田島征三=文・絵
絵の中のぼくの村
飾り気のない文と絵でつづる、高知の村の少年時代。
■定価1300円(税込)

くもん出版 ☎03-3234-4001(代)

くじら刺 1000円
くじらたたき 2000円
かつおたたき 780円

新居区歌舞伎町2-41-12 川井ビル TEL 03(3209)0145 **土佐へ来てみや**

小料理 赤坂「土佐」

港区赤坂3-13-2 アダンビル 4階
電話 3586-9454

都会の中の小さな土佐

土佐料理 **土佐酒蔵**

〒104東京都中央区銀座7-6-8(西五番街) ☎572-9640

- 赤坂店(赤坂みすじ通り) ☎3585-9640
- 新宿店(新宿住友三角ビル) ☎3344-6585
- 渋谷店(シオノギ渋谷ビル) ☎3407-9640
- 駒形店(新宿野村ビル) ☎3348-2727
- 加寿翁(新宿住友三角ビル) ☎3345-0881

季節のふるさとの味 **土佐酒蔵**

銀座7-12-4 サンリード地階
電3545-3855 銀座第一ホテル通り

山筆

第15号/1992.12

土佐中・高同窓会 関東支部会報

〒112 東京都文京区水道1-10-7 同郷社気付 ☎03-3816-7011/FAX 03-3816-7044 編集人/藤宗俊一(42回)

開眼

それは奇しくも六十一歳の誕生日十月一日であった。親から授かった目玉が六十一歳目にしてプラスチックの目に置き換えられた記念すべき日である。

前日に白内障の手術を受け、この朝眼帯を外したその瞬間、この世の明るさに驚いた。昨日まで信じていた明るさは事実と相違していたのだ。

従来自分の尺度ですべてを押し量り、社員に苦言を呈していたが、その尺度が正しいかどうか反省させられた。六十一歳目の開眼というわけだ。

開眼といえば、郷土高知県がある分野で凋落傾向にあることが懸念されて久しい。こんな中で、我が母校も七十二歳にして開眼し、開校の精神に立ち返り、「徳器を高くし智能を大にして国家に尽す」人材の発掘に努められんことを切望する心境である。

私が開眼できたのは同窓の富士メガネの窪田君(38回)が名医を紹介してくれたおかげであり、窪田君ならびにその巡り合いの機会を与えてくれた同窓会に感謝している。

25回 山本 高敬



「運動会に知事の横を走りました。見に来て!」の呼び掛けに、橋本知事夫妻がこたえた。生徒は大喜びで、「フレー、フレー、ハッショモト」の大声援。知事もこの日ばかりは政治を忘れ、大いに「青春」したようです。(文、写真とも 高知新聞社提供 92・9・26)

速報

さあ甲子園だ!!

春の甲子園選抜野球大会の重要資料となる四国大会が、11月21日より24日まで、高知県宮野球場で行なわれ、土佐高校は一回戦で香川県代表三本松高校を5-2、準決勝では徳島県代表鳴門商業を3-2と連破した。決勝戦は愛媛県代表宇和島東高校と今日24日午後に行なわれるが、たとえ敗退しても地区大会2位の成績となり、春の甲子園出場が有力になった。正式決定は来年になるが、89年夏以来4年ぶりに甲子園でハッラツプレーが見られそうだ。

土佐は県予選二回戦で高知商業を津野投手のパフォーマンスという新兵器で牛耳り快勝。須崎にも大差で勝ち、決勝の岡豊戦では打線が爆発、17-1と圧勝して、四国大会に駒をすめていた。

◇◇◇

昨年と同じく岡豊高校を破ったの県大会優勝。状況が同じであるだけに、関東支部の外野席は、早速、県大会優勝が決まった夜に神田の「かごや」(龍尾監督の姪御さんが経営)で鳩首会談を行い「昨年の戦を踏まじ」と対応を協議した。というのも、昨秋は四国大会の前日に「デキを食おう」とばかり、すぎ焼きを食って大いに氣勢を上げたのは良かつたものの、松山行きの切符を買って高松便に乗りなかつたり、めつたに応援に来なかつた人が来て「おんしが来るきに負けらあ」と罵倒されたりした人がいて、四国大会の初戦敗退は全部、前祝いした東京組のせいにさせられた苦い経験があった。

◇◇◇

そんな訳で今回は「大騒ぎをしない事」が暗黙の了解事項になった。前回一級戦犯の窪田(38)鶴和(41)氏を自宅謹慎に。県大会から高知に飛んだ浅井氏(30)を応援代表に決定。選にもれた人から「浅井さんが、ひいきの阪神を応援に行く」と必ず負ける。どうぞ行かんとうせ」の声もあったが「あれはプロの話、アマでは目下5連勝中」と押し切られる。

編集局では出張のサンケイスポーツの吉井氏(49)と編集長を特派員に。高知新聞社の宮内氏(39)の写真提供と、あくまでも「仕事のついでに」(間違っても「を」ではない)。吉井氏は「今、土佐が優勝したから紙面がいろいろ」と依頼されていた原稿をすつぽかし、一面を提供。編集長は「たとえ優勝戦に残っても、24日の昼までに原稿と写真をもつて、羽田から印刷所に直行すべし」との電話に、四国大会準優勝の予定記事を書いてさつさと高知へ。

好調の打線が火を吹き逆転、4回にも追加点をいれて、後援会会長の山本氏(23)、本部長の片岡氏(30)と浅井氏の解説合戦も登場。しりしりに調子をあげた津野投手が2安打に抑えて快勝した。夜は古谷氏(49)の好意でサンライズホテルで勝利を祝った。準決勝では自粛中のはずの岡崎(23)三宅(41)氏や現幹事長の池上氏(28)も加わって、応援にも熱がこもる。

はいやがうえにも盛り上がり、昨年の鬱憤を晴らした。論議を呼んだ明徳の夏の甲子園から3カ月。「これぞ高校野球の原点」を示す母校野球部の甲子園での活躍を、心から期待する声があちこちできかれた。

決勝戦の結果
土佐5-3宇和島東

四国大会みごと優勝



「さあ、甲子園！」勝利を報告に向かう土佐高ナイン(写真提供:高知新聞社)

東海支部恒例の夏の集りは8月22日に名古屋市内の「加寿翁」で開催されました。(この店は51回生の市川尚孝君が店長を勤めています)参加者は26人で、会の初めこそ年齢別のグループでテーブルに納まっていたが、土佐料理に舌鼓を打ち、店長スペシャルサーブの銘酒にほどよく酔いが廻る頃には「老中青」入り乱れての談論風発、はし拳も飛び出す賑やかさでした。また、支部会員有志で行うゴルフ大会の優勝者に贈る支部長杯なるトロフィーもこの席で披露したりと少しずつつ手を拡げています。

東海支部が母校への思いを共通の絆として、当地に定住する人の息抜きの場となり、また、新しく来た人にも安らぎの場となることを願っています。

広島支部だより

アジア競技大会を2年後にひかえた広島から小島 一洋(31回)関東支部の皆さんお元気でいらつしやいますか。第12回アジア競技大会広島は平成6年10月です。今、広島インフラは、この大会をめざして

名簿だより

40回 大石和男

数年来構築してきたデータベースをもとに、昨年はじめて関東支部同窓会名簿を発行できました。努力された同窓各位に深く感謝いたします。名簿は同窓会の財産であり、同時に生き物でもあります。日々データを更新していかねばなりません。例えば昨年の新規登録と更新は計622件全登録者数3504名の約20%にものぼります。

現在、データベースは着実に整備されてきており、将来は皆様方に同窓に関する種々の統計データをお届けできることと思います。

出身小学校別の検索により、小学校の同窓会の開催も可能ですし、職種別の検索では同種企業間の同窓の情報交換もできるでしょう。

こうした付加価値をつけるべく次号では業種別リストをつけることを企画しております。簡単に主な業種について紹介しますと、多いのは電機関係の259名、金融・保険(231)医療(206)商業(185)公的機関(173)建設(150)などです。医療や教育関係の多いのは我が校の特徴かもしれません。

会社別では電機の東芝(31)日電(24)富士通(21)日立(19)ソニー(15)日本IBM(14)。運輸・通信の日航(13)全日空(7)NTT(20)NHK(17)日本

テレビ(10)。鉄鋼の新日鉄(13)NKK(10)。輸送・精密の石川島播磨(9)川崎重工(8)日産(9)。商業の伊藤忠(9)丸紅(7)。金融・保険の富士銀行(9)さくら銀行(7)第一勧銀(7)野村証券(10)山一証券(7)。サービス・メディアではリクルート(7)電通(7)。医療は順天堂(9)東京医科歯科(7)東京女子医大(7)東大(6)日大(6)などがあります。

これらのデータの基礎はあくまで同窓諸氏からの最新の情報でありますので、職場の変更、住所の変更など事務局までぜひご一報下さい。現在住所不明の方が233名います。

また職種別・会社別の検索のためには会社名は正規の社名に統一する必要がありますし、最近特に多いカタカナの社名は我々素人では職種の判断が難しいケースも多く、調査ハガキに正確な社名と職種を明記していただければ幸いです。また新年総会出席の際には名刺を名簿用受付に提供下さい。

●各学年の宛名シールサービスについて各学年の同期会に役立つようにサービスをいたしますが、次の条件をお守り下さい。

1. 学年幹事からの依頼の場合のみ受付です。
2. 費用はシールの時、基本料金1500円+人数×15円フロッピーディスクの場合1500円。
3. 申込は事務局まで。

近況報告

●30回 浅井 伴泰

大阪・キタの新地の山下成子さん(32回)の店のコンペが、猛暑の8月6日、ヨドコウ経営の名門西脇CC(兵庫県)で行われ、41年のセンバツ準優勝時の小さな大投手、上岡氏(42回)と一緒にラウンドした。

デンパレス)に広島にいらつしやいませんか。

前半2打差でなんとかついていったが後半大差負け。あまり飛ばすので「甲子園の決勝戦で、おまんがそればあ飛ばしたら文句無く優勝じゃつたに」とプレッシャーをかけたが、百戦練磨のマウンド度胸と得意の舌戦で押し切られた。ベストグロは85で勿論上岡氏。その他同窓参加者は岡田(30)中塚(31)前田、永野、横山(35)清水(45)

関東支部だより

92年関東支部学年幹事会が9月12日に、新日鉄「新山谷寮」で開かれ45名が出席した。この結果来年の新年総会は1月9日(土)サンケイホールで開催されることに決定。

「筆山」編集長・戸田博之氏(38回)のブラジル転勤に伴い、後任の編集長に42回の藤宗俊一氏が選ばれた。

名簿チームからは今後の作業として、業種別索引の作成など付加価値の高いものをめざすことが報告された。

支部活動報告

8月15日〓本部同窓会(三翠園)に宮地支部長、浅井顧問、岩村事務局長出席。

9月5日〓名簿委員会

9月12日〓学年幹事会(代々木・新日鉄新山谷寮)

9月24日〓筆山編集委員会

年会費納入状況

今年から年会費が3千円に値上がりしましたが、幸いにも例年なみの多数の方々のご協力を頂き、10月末までに千名の振込がありました。引き続き来年平成5年分の会費を同封振替用紙で納入下さるようお願い致します。振替番号〓

学校だより

学校長 森田 幸雄

会員の皆様がたには、日頃母校教育振興のため一方ならぬご支援を賜り、心から御礼を申し上げます。紙面をお借りしましたので最近の教育活動中、いくつかについて報告させていただきます。

炎暑の中での始業式から二ヶ月、今や秋色ひとしおの学園風情となりました。時の迅速な経過に驚かされると同時に、中高生諸君の心身に亘る成長の著しさに、頼もしさは当然として、畏怖の念さえ覚えるこの時期でもあります。さてただ今までの最大の行事は、秋分の日に開催された中高合同の大運動会でした。日本一を目指すだけに、中核となった体育祭実行委員会の意気込みは目ざましく、全校生徒の積極的協力と相まって大きな成果を収め得たことは嬉しい限りでした。県下でも生徒主導の学校行事が年々衰微していく中で、土佐中高生

ここにありの気概を示すこの伝統行事は、何としてでも守り育てて参らなくてはと考えています。先輩各位の更なるご支援をお願い申し上げます。ここで例年とは違ったトピックスをご紹介します。一つは宇宙戦争ならぬ雨中の熱戦となったこと。大雨注意報の下、中途切り上げも覚悟の決行となりましたが、生徒諸君の熱意の赴くところ、全員ドロコとなりながら悪条件を圧倒する高揚したムードの中で、文句なく楽しいしかも

整然とした体育祭となりました。その二は、大忙しの橋本大二郎知事ご夫妻が急遽出席下さったことです。名物の応援ヤグラに知事の顔をモデルに拝借した組があり、その縁で生徒が単独でお願いし、出向き、承諾して頂いたという次第でした。後日、無様なお詫びとお礼を申したところ、女生徒さんの直々の談判で喜んで出席致しました。本当に楽しかったというお返事でこれも上々の首尾となりました。その他、半期考査、中三生の関西方面修学旅行、全校遠足等々、行事が目白押しですが、いずれも無事消化致しており、何卒ご休心願いたい

と存じます。また本年度入試センター試験については、吉日を卜して二八六名(約86%)の者が出席致しました。高三生のラストスパートに期待しています。以上雑駁な記述になってしまいました。

本部だより

幹事長 池上 武雄(28回)

一、平成四年度総会が盛大に開催されました。平成4年8月15日(土)午後四時より、三翠園ホテルにて、二四〇名余の参加を得て、記念講演、総会、懇親会が続いて開催され盛会裡に終りました。得に本年度新入会員(67回)46名の参加は、これからの同窓会活動に新風を吹き込んでくれるものと期待されます。

記念講演は、永国淳哉氏(34回)による「ジョン万英語と土佐高英語」と題する示唆に富み、また大変面白いお話で好評を博しました。

懇親会は、ハンドボール部OBが司会進行を担当、高知医大職員中山高一氏(43回)をリーダーとするヨサコイ鳴子踊りもにぎやかに参加、大変盛り上がったものとなりました。

二、平成五年度総会ならびに支部新年総会の日程について平成五年度総会は、平成五年八月七日(土)午後四時より三翠園ホテルにて開催される事が決まりました。多数のご参加をお待ちします。

各支部新年総会の予定日程は次の通りです。

- 1月9日(土) 関東支部
- 1月15日(祝) 広島支部
- 1月23日(土) 関西支部
- 1月30日(土) 東海支部
- 三、代表役員会が開催されました。

平成4年9月19日(土)午後二時より土佐高会議室にて。1・「準会員」の取扱いを検討するため「会則検討委員会」が組織されました。

2・同窓会役員の補充(死亡などによる欠員)、新入会員の役員選出等本部役員に選出交渉が一任され、同窓会活動の一層の活性化をはかることが話し合われました。

●お悔やみ申し上げます

西山利平氏(前土佐中・高振興会会長) 92年10月22日

東海支部だより

支部長 水谷 昭(22回)

近年になく暑い(熱い!)夏に喘いだ東海地方でした。

西峯先生を囲んで

52回 横川 壽彦

去る8月14日に高知のサンライズホテルで、西峯先生を囲む同窓会を行いました。この会は、西峯先生がクラス担任をされたクラスの卒業生を集めて行われたもので、有志の協力によりギリシア、ローマを回られた先生のお話を聞くという主旨もありました。

雨の中をかけた出席者は合計44名。内訳は49回生14人、52回生16人、55回生2人、58回生10人。高知だけでなく、関西や関東からも出席しました。その他高校一年のときに受け持ってもらったという方2人も出席しており、先生の人徳かと感じた次第です。

まず、西峯先生から簡単な挨拶をいただき、乾杯。その後、各自自己紹介。いつもの学年やクラスと同窓会とはひと味違うのは、多少年齢の異なる4学年が集まるということからだったでしょうか。それぞれに、それぞれの年代での西峯先生の思い出も語られました。どうやら、だんだん円くなっていく先生の姿が浮き彫りにされたような気もし

ましたが。あまり学年も離れていないこともあって、すぐ打ち解けることができたように思えます。呑んで食べて、久しぶりに会う同級生とも時を忘れて思いきり話しまくりました。

次に、先生からヨーロッパ訪問報告。地方地方での先生の感想を中心に、歴史上のエピソードを交えて、スライドを使っての大熱演。昔、世界史をとった人たちは、高校の授業を思い出させる懐かしい機会となったようです。残念ながら先生の授業をとつていなかった私にも、先生の歴史に対する情熱はひしひしと伝わってきました。

最後に記念撮影はおさだまりのパターンですが、最後まで和気あいあい。思い出話は尽きませんでした。



もちろん2次会以降へなだれ込み、まだまだ夜は長かったということもご報告しておきます。

一人の先生の受け持ったクラスが学年を超えて集まるという企画は、土佐中・高の同窓会でも珍しく、今後このような機会がありましたらぜひ参加したいと思いました。企画をなさった49回生をはじめとする皆様と、各学年の幹事役をなさった皆様、本当にありがとうございました。

『里見勝蔵先生』の事

34回 渡辺 靖夫

した。また、後年、朝鮮陶磁に非常に関心を持たれ「李朝の陶工の人に興味がある」と言っておられた。今になって「豊かな作品は豊かな時代と豊かな人の心に生まれ、強靱で品位高き作品は脱俗的な人のみによって創られる。そんな事当り前でしょう」と先生の呟きが、試行錯誤した結果やと耳元で聞きたる様な気がします。

先生のアトリエに出入りを許され、いつも御馳走になりながらうかがったお話。時折お見えになる隣人の棟方志巧先生(里見先生を勝手に師と仰ぎ、版画で里見先生を追われていた)の顔やお声。一時一事が宝石の様に思える。そんな次第で先生の作品(三点のみ)や、周囲の先生方の作品が少しずつ集まる様になり、且つ子供が大人の真似をする様に陶磁器類にも手を出す様になりました。美の世界をうららかに知る喜びを先生の一万分の一程にしか理解出来なくとも、目下とても心楽しくしていられます。

田舎生まれで芸術的環境など全く考えられない育ちの私が、現在いくらかの絵、陶磁器類を身の廻りに置くようになりしたのは、里見勝蔵先生にお会いして以来、いろいろな事をお教え戴いて……。先生は良寛の句「炊く程は風が持ち来る落葉かな」といったお考えの方でしたから、世俗的名誉欲など微塵もなく、世間に阿る事なく、作品も少なく、従って一般にはあまり高名とは思いませんが、グラフィックに師事し(後に先生宛の彼からの手紙等を読みますと、身内の様に思っていた)ルオーを日本に紹介した方で、且つフォービストとして日本の洋画の歴史に確実な足跡を残されている。

先生は常々「絵画にはその時代の雰囲気と新鮮さが必要だが、新作も時を経ては旧作になる。それ故に旧作は時代を超えた永遠の理念を持つていなければならない。この二つの相入れない様な性質を合わせもつ事が芸術には不可欠である」と、よく言われま



なつかしい高知駅をバックに歓迎式にのぞむナイン

掘って、バットを使つてゴルフのPUTTINGをして遊んだ事が、ゲームの記憶よりも楽しかった思い出として今でもはつきりに残っています。こんなところにある無欲で大会に挑み、リラックスした雰囲気でも勝つて進む事ができた側面が表れているように思います。

無欲の勝利とは、このような事をいうのではないかと、当時を懐かしく思い出しています。

に徹底的に鍛えられたような厳しい野球を再びする、という雰囲気は全くなく、「出るだけ出てみるかえ」という気軽な気持ちで高知県予選に挑んだように思います。また、県で優勝して四国大会へ駒を進める時も「全国大会へ是非でも出るぜよ」という強い気持ちがあったようにも思いません。何しろ急造チームです。四国大会出場以降は、中学時代に鍛えられたチームワークの良さをトントン拍子

で勝ち進み、第一回の記念すべき大会で輝く優勝を勝ちとった訳ですが、当時は周囲の関心も殆どなく、全国制覇という偉業を成し遂げたといった意識は全くありませんでした。ただ優勝旗を持つて帰高した時の高知駅頭での盛大な歓迎式には、出発時との様変わりようにただただ驚くばかりでした。

大阪藤井寺に滞在中、ゲームの時以外は旅館の庭の片隅に軟球が一個入るほどの穴を掘って、バットを使つてゴルフのPUTTINGをして遊んだ事が、ゲームの記憶よりも楽しかった思い出として今でもはつきりに残っています。こんなところにある無欲で大会に挑み、リラックスした雰囲気でも勝つて進む事ができた側面が表れているように思います。

無欲の勝利とは、このような事をいうのではないかと、当時を懐かしく思い出しています。

十月八日早朝、予定どおりリオ・デ・ジャネイロ国際空港に無事到着。四回の機内食のおかげでズボンがきつくなるやら、お尻が痛くなるやら、国際線慣れしているはずのこの身も24時間のフライトにはいささかげんなり。リオ特有の熱帯の植物の匂いと、ガソリンの臭いが混じった懐かしいムーとした空気に出迎えられる、とうとう来たとの実感が沸く。リオはいま春。

荷造りの時、女房殿が「あれも入れちやあ、これも入れちやあ」と豪快にどんどん投げ込んだために、トランクの中に

足の裏から①

情けは人の為ならず

38回 戸田 博之

つい最近A君は家族を連れて、真つ昼間コパカバーナの海岸に面した超一流ホテルの横に駐車し、下りたところを七人の強盗に取り囲まれナイフを突きつけられて「金を出せ!」金を出そうとしたところりーダーとおぼしき若者が、A君の顔をじつとみて、「あんた、昔このあたりで靴磨きの子供に毎晩のように靴を磨かせ、小遣いを渡していただろ?」

手続きでその職を追われるという世界でも例えない政治劇を経験したブラジルは混乱の最中。経済は停滞し、不景気は社会の下積みの人達を直撃し、犯罪が増える。聞くところによると、リオのファベラ(貧民窟)人口の割合がかつての四分の一から三分の一へと増加しているとの事。だから治安も悪くなる道理。これから先のリオ生活が思いやられて、アア。

現職の大統領が汚職のために弾劾

岩谷清水氏 逝く



10月6日、本紙顧問の岩谷清水氏(27回生)が、脳内出血のため自宅で急逝されました。9日の兵庫県西宮市の楠会館での本葬の後、15日、港区芝の増上寺での公文教育研究会社葬には、多数の同窓会関東支部員を始めとして約五百名が参列した。

公文公会長(7回生)、友人代表・門脇稔氏(25回生)、同窓会関東支部代表・近藤久寿治氏(6回生)らの弔辞の後、参列者はパッパの曲が流れる小雨の中、早すぎる死を惜しむとともに、白菊を献花し故人の冥福を祈った。

弔辞

岩谷清水君、君の急逝ほど、近ごろショックなことはないありませんでした。筑波大学で日本独文学会が開かれていた会場で君の訃報が届き、瞬間、真実かどうかを疑ったほどでした。近ごろ君は酒も余り嗜まず、ひたすら公文研究会の仕事、それに関連しての執筆、講演に精励されている様子にすっかり安心してしまっていたし、いざれ私のときには大いに手伝つて貰おうと思つていましたのに。ただあらゆる面に熱心の余り、多少精を出し過ぎるのではないかと、その真面目さにいささか心配はありましたが。

君が一九五二年、早稲田大学政経学部に入學されてから、当時東大泉にありました私の家へも、後の文京区の家へもよく来てくれました。それは土佐中学・高等学校同窓会東京支部の学生幹事として年二回ほど開く総会に就いての打ち合わせが主な要件でした。総会で一番心に残っているのはさる年の五月、新緑の小石川植物園で行われたそれでした。植物園はアルコール類持ち込み厳禁でしたが、先

輩の片岡義信さんの車を借りて(その頃は車を持つていない人は極めて少なかったのです)それに酒をひそませて運び込みました。また私などには初めてのフォークダンスに興じ、平井康三郎大先生にヴァイオリンで「よさこい」など弾いて貰ったりしました。その頃は会の予算が足りなくなりましてすぐに幹事が先輩に泣きつくという癖がありました。岩谷君、君が幹事になりましたと計画万端すべて整い、こういうことが全くなり、今度は少し余裕が出来ましたと報告を受けるほどで、まさに名幹事でありました。

また、時に落語の披露をやつて下さつて友人連や私どもの家族を欣ばせてくれました。当時落語だね百番を覚えたといひますから、その熱心さが判るといふものです。家の中の座布トンを集めて積み上げ、その上にチヨコナンと座り「熊さんや」と来るのでみんな大喝采でした。

岩谷さん、貴方は各方面の仕事や人に触れて世界の広い人でしたが、やはり根つからのジャーナリストでありました。土佐高校の時代に創立された新聞部に入り、部長にもなつて活躍、当時の土佐高校の新聞の名前は全国にも喧伝されたと聞いています。東京では高校時代の新聞仲間を糾合し、新聞、出版の仕事に携わる先輩達を説いて向陽プレスクラブを結成し、私など年長の故もあつて顧問にまつり上げられていましたが、みんな苦労しながらも自由の精神で楽しく語り合いました。中心はいつも岩谷君でした。

たでしよう。念願の土佐中学校初代校長三根円次郎先生の伝記も書き上げたかつたでしょうに。しゅく忽の死はそれらを吹き飛ばしてしまいました。しかし岩谷君、君は今まで懸命に生きて来られました。さらばよし、これまでど思い、安らかに眠つて頂きたいと思ひます。

最後にわが土佐中・高同窓会関東支部への長い年月に亘るお世話に対し一同深く感謝申し上げ、厚く御礼を申し上げます。

平成四年十月十五日
土佐中学校・高等学校
同窓会関東支部を代表して
近藤 久寿治

中野区野方村
岩谷清水先輩の思い出
30回 横山 禎夫
昭和三十年二月のある朝、それぞれ親父のお古のポストンバッグをさげた中城正亮君と私は、土佐高新聞部の三年先輩岩谷清水さんに連れられて、中野区野方の住宅地の、当時はまだほとんど舗装されていなかった道を、岩谷さんの寄宿先、酒井邸に向かつて歩いてた。寒い朝で、道の日陰側にはあちこちに雪が残

全国高校軟式野球大会

土佐高が優勝！

昭和31年 第一回大会

兄の優勝

38回 三宅ヨシロウ
昭和四十四年九月、私の次兄、三宅ヨシマルは、自分の



全国優勝を普段着の笑顔で喜ぶ軟式野球チーム（'56・8・29 藤井寺球場）前列左端が市原氏、後列右3人目が上田氏、優勝旗を手に持つ故三宅氏

戦績	1-0 高崎商
1回戦	3-0 福島商
2回戦	2-1 北海
準決勝	1-0 中京商
決勝	

昭和三十一年、私が小学六年の夏休みの盆の頃、兄ヨシマルが土佐高三年の時である。野球のバットとグラブをかかえて、吉良川町へ帰ってきた。そして私も兄弟に、小学校グラウンドまでつき合っ

た。ほしい旨の申し出があり、何事かと聞けば、この年に初めて「全国高校軟式野球大会」が開催されることになり、土佐高が四国代表になったとか。いつの間に、高知県予選や四国予選があったのか聞き忘れたが、ともかく数日間、一人の選手を相手に私も数人のコーチが指導した次第である。そして、八月後半に大阪・藤井寺球場で行われた全国大会において、あれよあれよの間に優勝した訳であるが、この前後の経緯は、諸先輩方にお願ひすることになります。

頭と顔でこい！

34回 市原 隆
皆紅顔の美少年だった。おまけに顔で来い、腕力で来い、強烈な自信過剰の連中の集まりだった。昭和三十一年八月、

第一回全国高等学校軟式優勝野球大会で、我が土佐高チームが栄えある全国制覇を遂げたのは、水の高きから低きに流れるが如く、洵に当然の事と言えた。戦の際、己が精神を高く飛翔せしめ、その精神の高処から何千万馬力の念力でもって、はるかに敵を見下すこと、これが故大嶋校長直伝の土佐高野球の奥義であった。中京何するものぞ。平安何するものぞ。やるか、頭と顔で来い。優勝戦は名門中京商業と戦った。弱冠土佐高一年生、投手市原はこの試合を奪三振6、与四球0、被安打4、失点0と敵走者に一人として二塁ベースを踏ませる事なく完封した。たかが軟式、これど軟式野球ではあった。

刀圭界に名だたる国手たらんとされた京大医学部進学の三宅先輩、東大野球部合宿所に生活道具一切を放り込んだものに、間違つて阪大医学部に進学した万能の天才熊野先輩、慶大卒業実業界で八面六臂の大活躍の上田君、日本有数のホモロスの叙事詩の研究者、ICU進学の明神君等々、今思ひ出す顔は皆、三十数年前の、あの皆を決した決勝戦の顔である。

無欲の勝利

34回 上田宗一郎
バルセロナオリンピックの水泳で岩崎恭子選手が見事金メダルを獲得したとき、彼女以外の前評判が高く期待のかかっていた選手との結果の違いをみて、「プレッシャー」がどんなに大きい影響力かをまざまざと痛感しました。この時私は、三十六年前の第一回全国高校軟式優勝野球大会で優勝した時の心理状態と岩崎選手のそれとに相通ずるものがあるように思ったのですが、それはまさに、「無欲で伸び伸びと自分の力を百パーセント発揮することが如何に大きな力となり得るか」という事であります。

昭和三十一年（高校一年）の夏休み前、私は肩を痛めた事もり、中学時代取り組んだ野球をやめて、大学受験めざして勉強一筋（こ）に進もうとしていた。そんな時、軟式野球の全国大会開催の話があり、中学時代の野球経験者が急遽集まって出場するハメになりました。何しろ四十年近くも昔のこと故、記憶の定かでない部分もあるが、中学時代にチツチさん（富田俊夫先生）

つていた。それから二週間ほど、中城君と私は岩谷さんの四畳半の部屋から、大学の入試を受けていった。部屋の中は本棚と座り机があるきり、柱から柱に紐が一本かけてあり、それに洗濯ものがぶら下がっていた。夜は三人が川の字になって寝るのだが、中城君がいびきをかくので、試験の当日私は睡眠不足だった。それでも二人とも志望の大学に入れたのは、岩谷さんが、ある時は雪の降る中を、ある日は氷雨の中を、試験場までついてきてくれたおかげだと思ふ。

(5) 野方——当時はまだ田舎で、駅から十分も歩くと遙か練馬のほうまで麦畑がひろがっていて、私たちは野方村といっていた——には、土佐高の間が十人ほど住みつき、毎晩のように岩谷さんの部屋に集まってダべった。すぐ思ひ出すだけでも三十回生では中城君はもとより、鍋島高明、松木鷹志、柳生高秀、溝淵彰人の諸氏、二十八回生の沢田重雄さんなど。時には岩谷さんの部屋に入りきらなくなつて主人の酒井朝彦先生——坪田譲治や浜田広介らの仲間、児童文学者協会の会長も務め

られた——の仕事部屋や茶の間まではみ出て、清水亭熊助こと岩谷さんや弟子の小熊こと松木君の落語に腹をかかえて笑った。

——気がつく、テレビの画面の中で門脇稔先輩（25回）が弔辞を読んでいる。平成四年十月十五日、芝・増上寺会館、岩谷さんの公文教育研究会社葬。式場が一杯なので、私は控え室の隅で土佐高の間と式場の様子を中継するテレビを見ている。そばには酒井先生の長男春雄さんの顔もみえる。

岩谷さんはキリスト者だった。われわれを集めて聖書を一緒に読んでくれた。やはり野方村の住人になった三十二回生の岡林敏真君や堀内稔久君も入っていたと思う。当時まだ珍しかった口語訳聖書の旧約新約一緒になった厚いハンデーパー本だった。岩谷さんは私たちに信者になることを強制したりはしなかったが、ただ一度だけ驚の宮の酒枝教授のお宅で開かれていた無教会派信者の集まりに連れていかれたことがある。結局私たちは誰も信者にはならなかったが、聖書講義をつうじて学んだ岩谷さんの信念は、まだ

フレッシュだった私たち後輩の心の中に植えつけられたと思う。

——やつと順番がきて岩谷さんの遺影に花を献じ、軽く手をあわせたとなん、一瞬キリで刺すような悲しみが走った。奥様や公文先生に挨拶し、立礼の研究会役員の中に中城君を見つけ、お互い目で挨拶して式場の外に出た。雨がやんでいた。

岩谷先輩をしのぶ

30回 中城 正晃
十月六日、岩谷清水先輩とのお別れは、あまりにも突然であった。前日、公文教育研究会の長期ビジョンを検討する役員会議では、国際的視界に立った的確な展望と施策を述べられたと聞く。

ところが翌六日、午後の会議に出席されないたため、秘書がご自宅を訪ねたところ、室内ですでに息絶えておられた。脳内出血との診断である。奥様はいにく大阪でのお仕事のため、ご不在であった。午前中、十一時すぎには、『新・公文式算数のひみつ』（公文公・岩谷清水共著・くもん出版近刊）の追加原稿のため、岡山の教室に電話取材

されている。そして赤字を入れた校正刷を手に、出社されようとして倒れたのである。ぎりぎりまで小社の出版物の校正に当たっておられたわけで、申しわけない気持ちでいっぱいである。

毎週のように、大阪・那覇、札幌……と全国をまわり、公文会長に代わって講演をしたり、指導者研修に当たったりしていた。さらに、スイスマースクールでは、校長として陣頭指揮をとっていた。この間隙をぬつて、原稿を執筆し、歌のレッスンを続け、同窓会や合唱団の世話をしていたのである。

なぜこのように多忙だったのか。まず第一に、全国一六三万の生徒、海外二六カ国に教室と、大発展した公文式教育にとつて、公文公会長（7回生）に代わってその理念や教育技術を伝授できる、かけがえのない存在であったためだ。なにしろ公文会長とは、高知で生家が隣同士、土佐中の後輩で教え子、東京での公文式教室の第一号という仲だ。この公文式教育は、近藤久寿治先輩がよくおっしゃるように、旧土佐中の「自分の能力に応じ、学年より先に進む」

教育を発展させたものである。岩谷先輩ならではの代役不可能な立場と、役割の大きさを

ご推測いただければ。

次に、岩谷先輩は土佐中高新聞部のドンであり、早大卒業後もフリーの編集者として活動してきた。その文才を生かし、一九六四年に公文先生の意を受けて執筆した『公文式算数の秘密』が、大ベストセラーとなり、公文の急成長のきっかけとなった。それ以来、原稿執筆やテレビ出演など、公文のスポークスマンとして欠かせない存在となった。さらに一九七八年から三年間ドイツに留学した。この経験から、国際的視界に立つて青少年教育を論じ、かつ実践できる貴重な存在であった。まだまだ語りつくせない。今さらながら、あいた穴のあまりの大きさに呆然自失の毎日である。（くもん出版社長）

故岩谷清水氏 略歴

昭和8年高知市生まれ。27年土佐高、31年早大政経学部を卒業。教育雑誌編集、児童文学の執筆に従事。37年東京に初めての公文教室を開設。47年取締役。教育主幹を務める。享年59歳。

湘南短期大学学長
神奈川歯科大学常務理事・教授

法学博士 **門 脇 稔** (25回生)

自宅／神奈川県逗子市山の根2-6-3 ☎(0468)72-1213

壺坂電機株式会社

代表取締役 **壺坂博文**
艶子(28回生)

〒192 東京都八王子市石川町1683-1
☎ (0426) 46-1127 (代) FAX 46-1834

東京エアゾル化学株式会社

代表取締役社長
浅井伴泰 (30回生)

本 社 東京都豊島区南池袋1-25-9
今井ビル5階 (〒171)
電話03-3984-1401 FAX.03-3984-1713
営業所 大阪／工場＝埼玉・岐阜



松 岡 巖 (31回生)

代表取締役社長

ローラ アシュレイ ジャパン 株式会社
〒150 東京都渋谷区神宮前3-35-8 ハニービル青山
Tel.(03)5474-2642 Fax.(03)5474-2644

不動産の総合商社

貴方の住まいのパートナー

栄 光 商 事

〒169 東京都新宿区百人町1-18-4
TEL 03(3361)8026 FAX 03(3361)8280
全国宅地建物取引業保証協会々員
東京都宅地建物取引業協会々員

代表取締役 **森 沢 俊 策** (33回生)

三菱電機エンジニアリング株式会社

常務取締役 **森 健**
(23回生)

〒100 千代田区大手町2-6-2(日本ビル)
電話 03-3243-1781(代表)

圧縮空気除湿装置
吸着精製装置

AUTO-PUREX

丸谷化工機株式会社

代表取締役社長 **山本高敬** (25回生)

〒100 東京都千代田区大手町2-6-2 日本ビル



代表取締役社長

泉 谷 良 彦
(29回生)

株式会社 ユニバーサル・ネットワーク・サービス

東京都中央区築地4丁目7番3号 TEL. 03 (5565) 3883
〒104 築地ファーストビル4F FAX. 03 (5565) 3886

ルイ・ヴィトン ジャパン株式会社

代表取締役社長 **秦 郷 次 郎**
(31回生)

〒107 東京都港区南青山1-1-1 新青山ビル
電 話 (3478) 3694番



社 長 **溝 渕 真 清** (32回生)
森 本 毅 次 (61回生)

労働大臣許可13コサツモ0001号
東京都港区西新橋1-10-2
リクルート西新橋ビル 〒105
電話 03-3592-5528
新宿／横浜／神田
名古屋／梅田
難波／神戸

政治家の中には外交問題でとかく何かと動きたがる人々が居る。我々日本側が今急がなくてもよいのに、何か別の理由で外交的に動きまわりたい、そういう人々が居るといふことである。例えば、党内派閥の力学を自分に有利にするために、外交での自分の立ち回りを利用しようとの意図である。何のことはない、自分ひとりのために国を利用してやろうというわけである。

識者が指摘している通り、日露交渉で日本にとって急ぐことは今ひとつもない。欧米がロシアへの経済援助を急ごうが、ロシア大統領が日本より先に韓国を訪問しようが、それは皆それぞれの立場と理由があるからのことで、日本は自分の理屈と利害でいま進めばよいのである。領土返還は堂々主張し続けられよいのである。実に外交のイロハである。

ところが、我が政治や国会議員のセンセエの中には「バスにのり遅れる、孤立する」と言い出す御仁が必ず出てく

政治屋の墮落

35回 伊野部彦慧

る。他国の動きや発言に氣をもうでか、自分が国際通であるかのような理屈を何か言いはめる。そして、言わなくてもよいことを言ったり、したる。

金丸氏でさえそうであった今から二年まえ、北朝鮮へ与野党連合で出掛けて行つて「謝罪と償い」の一件でとんでもない言質を残してきた。戦後四五年を含めるといふあの一件である。だか案の定、今度は韓国側が苛立った。直ちに氏は韓国へ飛び、またもや土下座をやった。ダブル土下座の一件であった。

この事件は、いま新聞が騒いでいる5億円の授受問題よりもっと重たい問題だと、私はまだ思っている。

自己利益のためにだけ国を利用する人々は、唾棄すべき売国奴と呼ぶべきである。日露交渉や中国との問題など、外交交渉で我々が一番氣をつけなければいけないのは、交渉自体の巧拙ではなく、むしろ国内に潜む、小さな野心家の存在なのである。

作曲・指揮 **平井 康三郎** (5回生)
詩と音楽の会々長・ジャズラック評議員

チェロ・作曲 **平井 丈一郎**
カルザス高第・国連シンフォニー顧問

ピアノ・作曲 **平井 丈二郎**
東京芸術大学教授・ジュリアード音楽芸術博士

三菱電機株式会社

相談役

進 藤 貞 和
(3回生)

〒100 東京都千代田区丸の内2丁目2番3号



公文教育研究会

会長 **くもん とおる 公文 公**
(7回生)

大阪市淀川区西中島5丁目6番6号 〒532
公文教育会館
電話 06-304-7611(代)
東京都千代田区五番町3番1号 〒102
五番町グランドビル
電話03-3234-4651(代)

同学社版・新修ドイツ語辞典刊行

株式会社 **同 学 社**

取締役社長 **近 藤 久 寿 治**
(6回生)

東京都文京区水道1-10-7
電話(03)3816-7011(〒112)

財団法人 放送大学教育振興会

理事長 **宮 地 貫 一** (21回生)

東京都港区虎ノ門1丁目14-1
〒105 郵政互助会琴平ビル4階
電話 (03)3502-2750(代表)

浄水場・下水処理諸施設の運転・維持管理

月島メンテナンス株式会社

取締役社長 **吉 澤 信 一**
(16回生)

〒104 東京都中央区月島4-8-14
TEL 03-3533-6271